Osaka City General Hospital

がん患者さんとそのご家族の方へ

大阪市立総合医療センターは、厚生労働省より「地域がん診療連携拠点病院」「小児がん拠点病院」「がんゲノム医療連携病院」に指定されています。
※がんに関する情報やイベントについては、院内掲示、パンフレットラック、ホームページをご覧ください。

がん医療支援センター

妊孕性（にんようせい）温存治療をご存知ですか？
～将来、お子様を望まれる小児・若年成人がん患者さんへ～

妊孕性（にんようせい）とは、「妊娠するために必要な力」のことを言います。
がん治療は、妊孕性に影響を及ぼすことがあり、将来ご自身で子どもをもつことが難しくなる場合があります。がん治療を始める前に、卵子・精子などを保存しておくこと（妊孕性温存治療）で、子どもを授かる可能性を残せるかもしれません。
まずは、主治医やスタッフ、がん相談支援センターへご相談ください。

ステップ1
主治医から説明を受けましょう

がんの状況やあなたの受ける治療が妊孕性に与える影響を主治医に聞いてみましょう。治療によっては、妊孕性の心配をする必要がない場合もあります。また、がんの治療に入るまでにどの程度の期間があるか確認しておきましょう。

ステップ2
ご家族や周囲の方と相談しましょう
～がん相談支援センターをご利用ください～

がんと診断されて間もない時期は、混乱もあり精神的にもつらい状況にあります。一人で悩まず周囲の助けを借りましょう。
がん相談支援センターでは、妊孕性温存の流れや費用について説明し、意思決定のお手伝いをしています。

ステップ3
生殖医療の専門医療機関をご紹介します

妊孕性温存治療を希望される場合は、主治医へお申し出ください。
診療情報提供書を作成し、生殖医療の専門医療機関をご紹介します。
温存を迷われている方も、カウンセリングのみの受診ができますのでご相談ください。

ステップ4
自治体から助成金を受けられる場合があります

妊孕性温存治療は自費診療ですが、治療内容や年齢等が条件に合致する場合は、お住まいの自治体から助成金を受けることができます。大阪府の場合、卵巣凍結40万円・卵子凍結20万円・精子凍結2万5千円などの補助があります（2023年11月現在）。詳しくはがん相談支援センターにお尋ねください。

1階ロビーのパンフレットをご覧ください

大阪府がん患者等妊よう性温存治療費等助成事業→
（大阪府ホームページ）

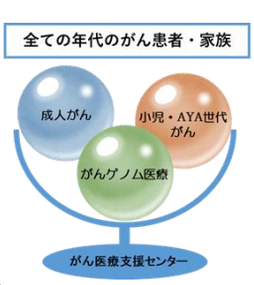
冊子「がん治療前の妊よう性・生殖機能温存」→
（大阪がん・生殖医療ネットワーク）

がん相談支援センターにご相談ください。
電 話　06-6929-3632(直通)
窓 口　病院 1階 総合医療相談窓口
相談は無料、匿名の相談も可能です。

冊子「がんと診断されたあなたに知ってほしいこと」→
（がん情報サービス）

がん患者さん・ご家族への支援について→
（当院ホームページ）

がんに関するWeb公開講座→
（当院ホームページ）



がん医療支援センターは、すべての年代のがん患者さんとそのご家族を支援します。